



## 喜びの保育

和歌山幼稚園長 中村 楠雄

幼い子達の相手をしてゐると餘りに美しい方面ばかりを考へてゐすぎた爲めに、案外な事に出會つてホントニ悲哀を感じる事もあります。私もかつて師範の訓導をしてゐた事がありますが、教生などは時々そんな風な事に就て實習録で若々しいけれども貴い悶を訴へる事がありました。

しかしそれらは皆々子供ばかりの罪とは言へません。子供はヤツバリ可愛いものです。よい事をして呉れた時は勿論ですけれども例ひおいたをしましてもヤハリ子供でなければ見られない美しさ

に、叱りどころか可愛いさで胸がいつぱいになる事があります。

でも子供には随分いろんなのがあつてどうしよう、どうしよう、本當にどうすればよいのか知らず、全く困つてしまふ様な事があります。そしてこれが解決に數日を要する事もあります。否一ヶ月も要する事があります。否半年もかゝる事があります。それは子供の質と先生の腕前や熱心の程度にもよりますが、とうとう成功した時、あゝ其の時の嬉しさ喜ばしさは眞實たとふるに物が

ありません。其の胸中のスガスガしさ、これこそ光風霽月の状態と申してよいのでせうか、本當にお金では買ふ事の出来ない私共のみの味ひ得る喜びではありますまいか。

◇

房子さんと恵美ちゃんは姉妹です。けれども二人とも未だずつとお小さいので赤組の子どもでもあります。所がこの子達に氣の毒な事には受持の先生が御病氣でおやめになつて、そして次の先生がいらつしやるまでに一寸間のあつた事です。其の間私は都合のつく限りこの組へ參りました。房子さんも恵美ちゃんもそれはそれはよくなつて呉れました。

ある雨天の日の歸るさでした。順ちゃんも文平さんも順ちゃんも壽美ちゃんも……皆んな

「先生マント着せて頂戴」

と言ひます。それで私は一生懸命に着せにかゝり

ました。附添の人々も手傳つて下さいました。所が房子さんと恵美ちゃんは女中さんが來てゐるのに小さい脇にマントをしつかりと抱へてチツトモ着やうとはしません。とう／＼一番おしまひになりました。私はそのそばへ行きますと

「先生に着せて頂くのだと申しチツトモ着ませんのです。」

と女中さんが申します。それで私は

「それでは先生が着せてあげませう」

と言ひますとニコツと笑つて元氣よくマントを差出しました。そして着せ終るともう一つペンニコツと笑つて

「先生さようなら」

をして歸つて行きました。

次の先生が來て下さる日が參りました。今度の先生も大變おやさしくて本當によい先生でした。

それですから子供達はすぐに馴れてよくなつきま

した。私も安心致しました。その中に夏休みが来て又夏休みが過ぎてしまひました。そして皆んな揃ひましたが房子さんと恵美ちゃんのお顔が見えませんか。どうした事かと思つてゐますと、房子さんと恵美ちゃんのお家はすつと遠い所なので今しばらく休ませるからといつてお届けが來ました。それから一ヶ月近くたつて二人とも元氣で幼稚園へ歸つて來ました。

所が二ヶ月程も幼稚園を放れてゐました爲か、どうしてもお席でお辨當を食へません。受持の先生も色々とお骨を折つて下さつたが仲々まだ思ふ様になりません。けれども女中さんと小使室であつたら食へます。或日受持の先生から御相談がありましたので、私も力添へ申上げる事にしました。そして受持の先生には一層工夫をこらして頂く事にお願ひいたしました。其の明くる日小使室で食べてゐる所へ行つて、

「お席へ行つて御飯食へない」と申しますと

「イヤイヤ」をします。

「小使さんの所で食べるとおいしいの」

と申しますとニコツと笑つてうなづきました。

「それじゃ此處でお稽古してをいてお上手になつたらお席へ行きませうね。」

房子さんも恵美ちゃんも得心したららしい様子で確かにうなづいて呉れました。

一方受持の先生には一層熱心に苦心して下さつて、食へないでもよいからお席へ這入りませうとか、先生と一つしよに後で食へませうとか、ポツリポツリと引き込んで行つて下さつたのです。とう／＼或日のこと一番後でなら食へると言ひ出したのです。

サア其の時の先生のお心持はどんなであつたらうかと思ひます。苦心をしたゞけに嬉しくて／＼

優しい女心からにはきつと涙の幾滴かをこぼされた事と思ひます。この涙こそ黄金にも玉にも換へ難い貴いものではありませんまいか。

そして房子さんも惠美ちゃんも先生のお側を放れないで今では喜んで御飯をいただきます。

◇

愛子さんは縁組です。そしてお姉さんのリエ子さんと二人同じ組です。時には争ひをする事もありますが、毎日休まずに仲よく連れだつて参ります。リエちゃんはさすがお姉さんだけあつて妹が無理を言つたり泣いたりする様な時には、よくお姉さんらしくお世話をなさいます。

所が愛子さんは妹であるしお家でも皆さんが可愛がりなさるので、どうかするとよく泣きます。そして泣き出すと仲々止まりません。こんな時にお姉ちゃんは何つてしまひます。いや／＼お姉ちゃんだけでありません。愛子さんが泣き出したら

受持の先生も全く困つてしまひました。

けれども受持の先生も氣長く何とかして愛子さんのこのクセを直したいものだと思つた努力を續けられてゐます。

或日のお辨當の時間でした。受持の先生が私に

「先生愛子さんはまた泣き出して止まりませんの」

と云ふお話しです。

「それじや一度二人で言つて見ませう」

と云ふので、受持の先生と私と二人で愛子さんの所へ行きました。すると愛子さんは未だお辨當に手もつけずお机の下に仰向けになつて、お隣の机をケリ飛ばしながら泣いてゐます。

愛子さんは時にこんな事を致しますけれども本當に純な子供です。其のダダケてゐる姿を見ても心から可愛いと思ひました。

「愛子さん、サア起きませう。起きて機嫌を直してね」

と私はやさしく言つて見ました。そこへ受持の先生が、

「愛ちやん、ソール園長先生もあんなにおつしやつてゐませう。早く起きてお眼々をふきませう。」と申されました。すると何と思つたのかスツツと泣きやんでお眼々をふきながら起きて來ました。

そこでまた私が、

「愛子さん、あなたは先生の申すことをよく聞いて下さるのね。お辨當も頂きますか」

と言ひますと、かすかにうなづきます。そして受持の先生がお茶をついで、

「愛ちやん、先生が居つてあげますからサアお上り」

と申しますと、愛子さんはお箸を握つてチョボリとお辨當につけました。

其時！ 受持の先生と私とが思はず顔を見合せました。受持の先生の眼には強き歡喜の光がありました。

愛子さんは此の日はこうして救はれました。でも愛子さんの長泣きをする習慣を全くとるのにはまだ一／＼一寸には參りますまい。けれども熱心にして忍耐がよく、またやさしい愛情の持主である先生を得てゐる事は此上もない幸ひです。愛子さんの全く救はれる日の一日も早く來らん事をおいのり致し度いと存じます。

◇

慶造さんのお父さんはお醫者さんです。慶造さんは其の二男です。體も仲々しつかりして元氣なよい子供であります。しかしこんなに元氣な子供にするまでに四月からどんなに骨が折れた事でしょう。受持の先生の氣長い丹誠が全く慶造さんの今日あらしめたのであります。

慶造さんは今年始めて幼稚園へ來たと云ふのでありません。けれども病氣をして割合に長く休んでゐたために四月からこちらへの慶造さんの様子は全く具合がわるいのです。おうちのどなたかついてゐなければ承知をしません。お祖母さんも置いて歸へらうと數回試みましたがどうしても駄目です。

中々こればかりではありません。ちつともお席へ這入りません。何時もお部屋の入口の靴脱の上に女中さんと二人でうづくまつてゐます。従つてお稽古は何も致しません。又めつたに口をききません。お友達とも遊びません。こうした間に受持の先生は何とかしてこの子を救ひたいものだといふと手段が構せられたのであります。或時私へ「先生から一つペン申して見て下さいませんか」と云ふ事です。

それで私も行つて其の靴脱の所へ一つしよにう

づくまつて、

「慶造さん、サアお席へ這入りませう。皆んなおんなに面白くお稽古してゐますよ」とか「慶造さんは元氣ですね。ソレ私がお目々をつぶつてゐる間に這入りますよ」

などとやつて見てもふんとしてゐて何の手應へもありません。

こりやいけぬ、今度はどうしようかと考へて其の次の時には繪本を持つて行きます。そして

「慶造さん、自分ら繪本を見ませうか。これ何してゐるのですか」

と言つても見むきもしません。

それから後に行つた時には他の子達は折紙をしてゐます。慶造さんはやつぱり靴脱にしやがんでゐます。

「慶造さん。ソレこんな奇麗な紙！ これで何折りませうね、さあ一つしよに折りませう」

と言つて紙を與へて見てもチラツと見たゞけで手に取らうとも致しません。

でも毎日どうにかこうにか幼稚園へ参ります。それに仲々私達の思ふ様に参りません。身體検査の時でも決して受けやうと致しません。何となだめすかしても駄目です。はては女中さんにむしやぶりつくやら擲ぐるやら、とつてもしまつに終へません。

これは手強い。何とか名案がないか知らと思ひましたがそんなに手取り早い方法も考へられませんが、結局慶造さんと私達とは離れて居すぎたのだ、だから慶造さんとお友達になるやうにもつともつと骨を折らうと思ひ定めました。

それから自由遊びの時を見はからつては出来るだけ繰り合はして出て行つて、何か知ら慶造さんに話しかけたり、お遊びの仲間に這入つて貰ふ様につとめました。其の間受持ちの先生の努力、そ

れはもう云ふまでもありません。さうしてゐる中に何だか慶造さんも私達に親しみを持ち出したのではないかと知らと感づかれぬでもない様になりました。けれどもまだくお席に這入りません。勿論お遊びも致しません。

所が或る日ふと見ると慶造さんは女中さんと廻旋塔のそばにたつてゐるのを見ました。私はつかつかと其の方へ行つてすと乗りました。さあ子供達は喜んで

「先生ここへ乗つて頂戴」

「先生あたしの所へ来て頂戴」

「先生僕の所ですよ」

などと口々にやかましく騒ぎたてます。其の中誰か、

「先生僕押してあげます」

と叫ぶと、そこからもこゝからも、

「あたしもよ」

「僕もだよ」

と言つて押手も澤山出来ました。そこで私は

「サア南海の急行電車のように走つて貰ひませう」

と言つてひよつと慶造さんの方へ眼をつけて

「慶造さんも押してくれませんか」

と言つて見ました。するとこれはどうです。ニコ

ツと笑つたと見ると、いきなり私の座席の後をつ

かみました。私は

「しめたツ」

と心の中に叫びました。そして子供達が廻はして  
くれてゐる間も心が落ちつかぬ位、胸がわくわく

する様な喜びを感じました。

それから私は下りて、

「慶造さん乗らない」

と申しますと、だまつて上つて座り込みました。

それで今度は私は慶造さんの座席の後を持つてぐ

るゝ廻はりました。

熱心にして注意深い受持の先生はこんな様子も  
ちやんと見て居られた様です。そして私達は慶造  
さんの段々よくなつて來る事を話し合つて喜びま  
した。其時私は受持の先生に、

「慶造さんの爲めには少し荒いと思はれる様なお  
遊びがよいのでありませんでせうか」

と申しましたが、同先生もやはりそんなにお考へ  
の様でした。それから後は私も注意は致しました  
が、受持の先生には益々熱を加へられよく忍耐さ  
れましたので、子供は段々よくなつて行くば  
かりでした。そして時々

「先生今日は慶造さんは走りを致しました」

「慶造さんは今日はお席の中へ這入りましたよ」

「慶造さんも折紙を致しましたの」

「やつとお遊戯室へ這入るやうになりました」

「もう大丈夫！ 今日皆んなとお遊戯をしまし  
た」



と云ふ様な嬉しい／＼報告をして下さいました。

そして夏休みが来る頃にはもう他の子達とほとんど變らぬ位になりました。殊に十月に運動會をした頃には、走りもすればお角方も取ると云ふ風に全く元氣なよい子供になつてゐました。今では家庭の方でも大喜びです。運動會をした時などにも前日に慶造さんのお宅から電話で

「明日は家内中見せて貰つて参ります」と申してお出でになつたり、又當日は早朝から見

にいらつしやつたと云ふ程の御熱心さであります。

けれどもこうした間に半年はたちました。随分私達の苦心も長き日を要しました。だが私達の働きは決して無駄ではありませんでした。子供の様子を見るにつけ、家庭の喜びを見るにつけ、私達も嬉しくて／＼何かしら感謝の念が切りに湧いて参ります。(大正十四、十一、九)

愛は最大の力なり